

報告事項第6号

官民連携まちなか再生推進事業について

北朝霞・朝霞台駅周辺エリア

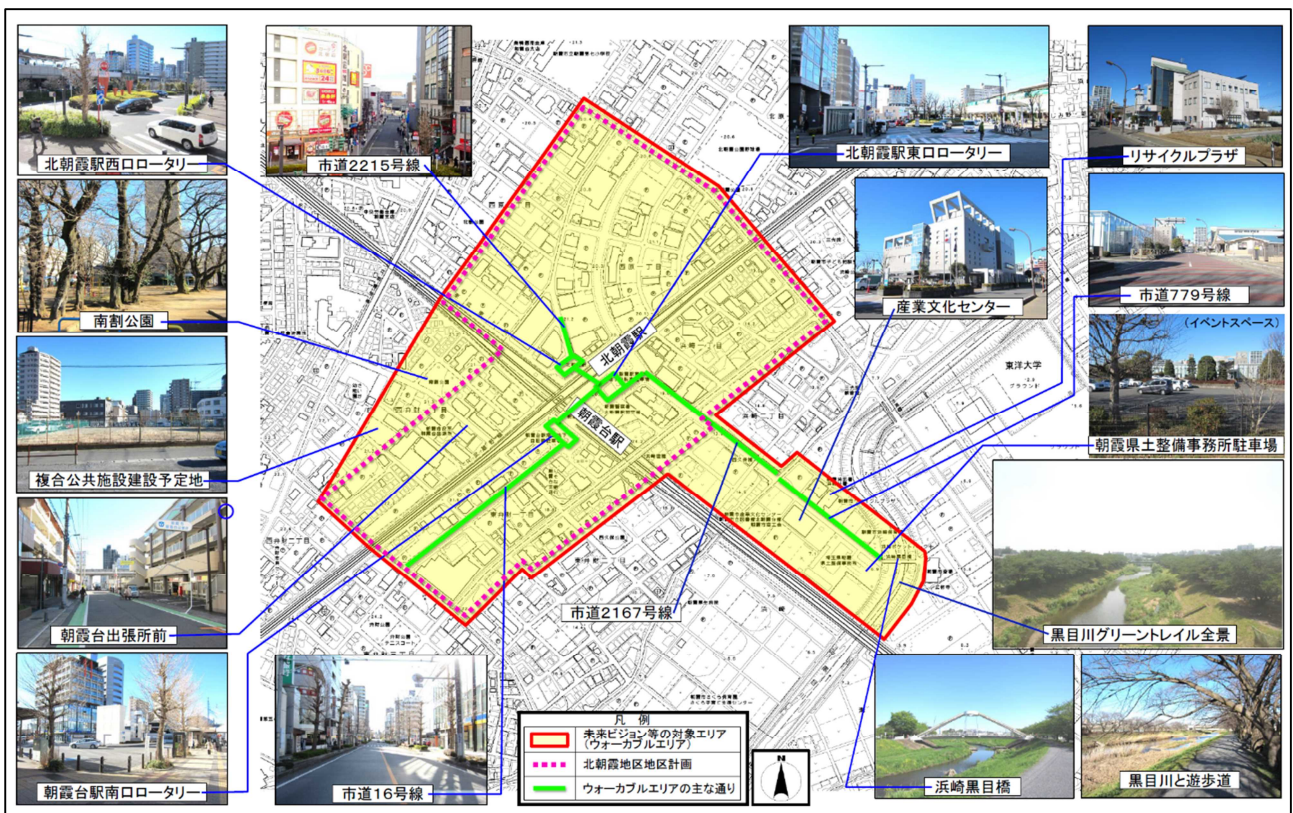
令和4年度官民連携まちなか再生推進事業 実施報告

1 事業目的

県内有数の乗り換え駅である北朝霞・朝霞台駅周辺地区において、駅利用者や周辺住民の多様な潜在需要に対応するまちづくりを進めるため、居心地の良い新たな空間の創出や、持続的ににぎわい創出のための空間活用促進のフレームづくり、ウォークブル推進を軸としたまちなかの魅力向上等について官民で検討を行い、『電車の乗り換えで通過するまち』から『立ち寄って滞在したくなるまち』を目指すための未来ビジョンを策定する。

2 事業対象エリア

黒目川の一部を含む北朝霞・朝霞台駅周辺地域



対象地域の概要

- 本地域は、JR武蔵野線、東武東上線が交わる都市交通の重要な結節点となっており、北朝霞駅、朝霞台駅は、1日延べ30万人以上が利用する、県内有数の乗換駅として、市の中心的な拠点及び玄関口となっている。
- 駅前には3か所の駅前ロータリーがあり、徒歩圏に公共施設や商業施設が集積しているほか、駅近くに自然や生態系が豊かで水質も良い黒目川が流れており、さらには街区公園が点在しているなど、ポテンシャルの高い公共空間が複数ある。
- 一方、車が中心の駅前ロータリーをはじめ、周辺に心地の良い滞在空間が少ないこと、駅利用者の潜在的な消費需要を取り込めていないこと、駅前広場や黒目川などの公共空間の活用がされていないことなど、エリアのポテンシャルを活かせていないという課題がある。

3 実施内容

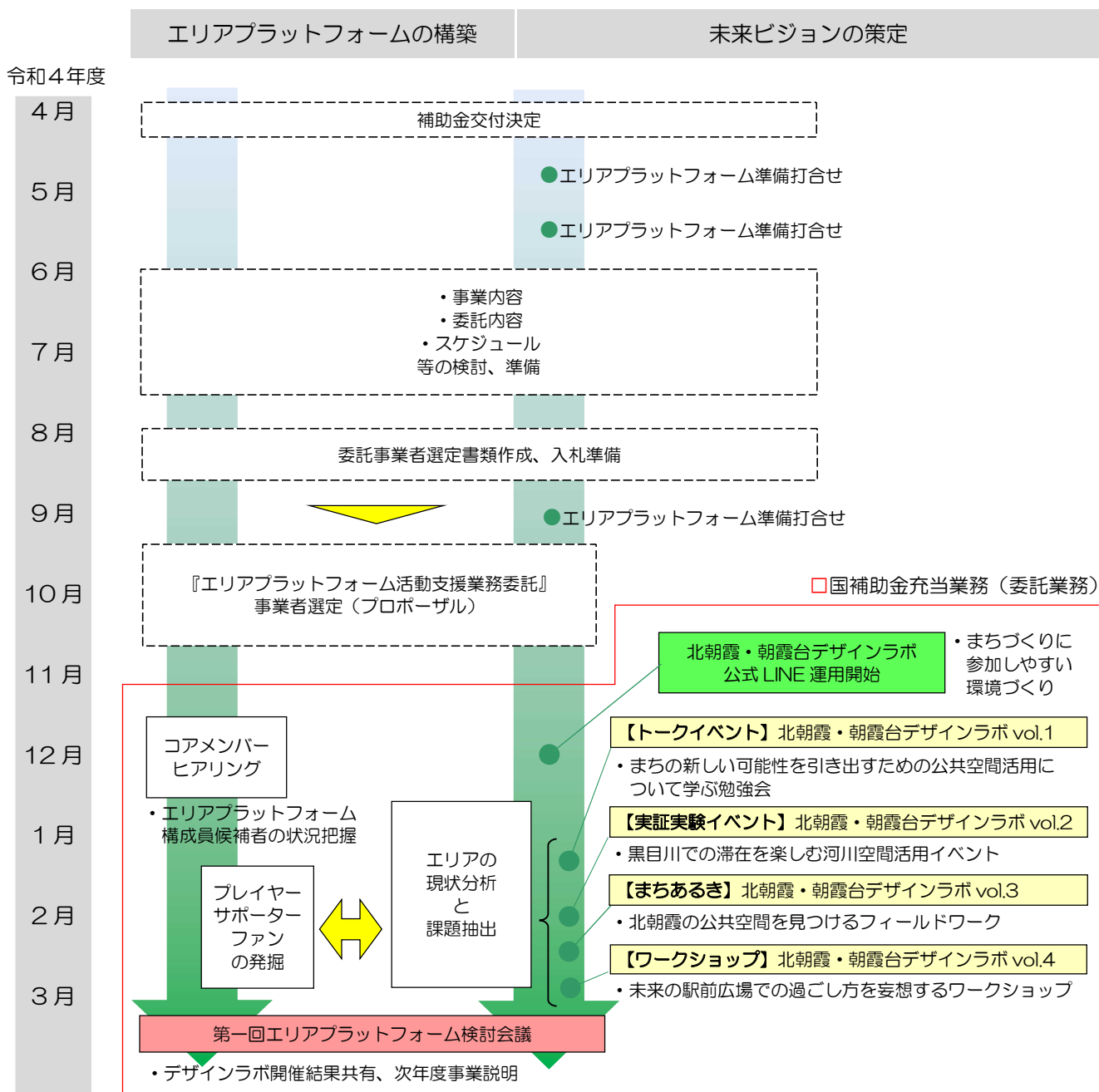
(1) 事業を通じて主に取組んでいくこと

- 各イベントやワークショップを通じたまちの魅力（ポテンシャル）発掘
- まちの魅力や特性を活かした公共空間活用型イベントの開催
- にぎわい拠点となる新たな公共空間（駅前広場等）の創出とその活用の構想検討
- まちなかの公共空間を使いたい人が自由に使える利活用促進の仕組みづくり
- 地区の景観資産である黒目川と駅周辺地区をつなぐ試み
- 北朝霞、朝霞台地区の将来像をビジュアルで示す未来ビジョンの作成
- 持続可能な官民連携まちづくり組織（エリアプラットフォーム）の構築

(2) 令和4年度の事業種別

- ・ エリアプラットフォームの構築（暫定的な構築に着手）
- ・ 未来ビジョン等の策定（策定着手1年目、地域特性の分析を中心に実施）

(3) 令和4年度事業実施フロー（実績）



4 実施状況

(1) エリアプラットフォームの構築

エリアプラットフォームの構築・運営に向け、これまで北朝霞・朝霞台地区のまちづくりや地域振興に関わりのあった方々や地元企業を中心に選定し、暫定的に検討組織を構築した。

自治会・町内会	・浜崎上町内会 ・朝霞市自治会連合会	商業振興会	・北朝霞商業振興会 ・朝霞台商業振興会
地元企業	(株)ラビックス、(株)タック	金融機関	—
不動産事業者	(株)リゾン、かつみ開発(株) (株)光陽	行政経験者	前副市長
		商工会	建設部会長、事務局長
朝霞市	まちづくり推進課、産業振興課	その他	地域情報ポータルサイトまいぷれ
専門家	・オープラスアーキテクチャー(同)／(東京理科大学) ・コトノハコ ・埼玉大学 ・全国まちなか広場研究会／まちなか広場研究所 ・ダマヤ・カンパニー(株)		
朝霞市	まちづくり推進課、産業振興課		

今後、まちなかに持続的なにぎわいを生むための公共空間利活用の仕組みづくりやその運営を担っていきけるような組織を目指し、ワークショップや実証実験イベント等を通じて、望ましい組織体制や中心となるメンバーの集積、意欲のあるプレーヤーやサポーターの発掘、自立自走の収益モデルなどの検討を進めていく。

ア コアメンバーヒアリング

官民連携事業について概要を説明し、北朝霞・朝霞台地域の課題意識やまちへの想い等についてヒアリングを行った。同時に、今後事業を推進するに当たっての支援を依頼した。

〔日 時〕 2022年11月25日(金)

〔対象者〕 (株)タック、(株)ラビックス、(株)リゾン、かつみ不動産(株) 計16人

〔主な意見〕

辺り一面がにんじん畑で商店街がなかった当時、先代が大規模店誘致のために北朝霞商業振興会をつくった。月に一度、地産地消の直売を実施し、会場の目の前の大型スーパーマーケットにも協力してもらった。地域と大型企業との協働の実績がある。

まちづくりでも、地域マーチャンダイジングを意識しないとイケない。

エリアプラットフォームを構築するにあたり大切なのは、行政が方向性を示すこと。

1996年、北朝霞駅前のランドデザインをした。時代の変化に対応できるよう、計画に期限は設けなかった。当時のメンバーは皆高齢化しているが、持続可能という点で、次の代に引き継いでいきたい。情熱を引き継ぎたい。

時代と共に、柔軟に、まちはどんどん変わっていけばよい。

JR武蔵野線の高架下の利用について問い合わせたところ、行政でないと対応が難しいとのことだった。官民連携の必要性を感じているところ。

駅の北側と南側の分断が生まれにくい懸念している。北側、南側それぞれのビジョンがあってもよい。

北朝霞駅の乗降客数は一日に15~17万人と聞いている。電車に乗って黒目川を通過する際、寄り道したくなるようなまちづくりが必要。

かつて地産地消の直売が駅前で行われていたように、現在のにんじん広場が、ひとが滞在し、交流が生まれるような場所になるとよい。

子育て中の女性でもまちづくりに参加できるような、何かきっかけがあるといい。一歩目のハードルを下げること。

今、朝霞駅よりも北朝霞駅周辺に新しい住民が生まれている。子育て世代が多いが、共働き正社員で両親が遠方など、育児の大変さを目の当たりにしている。

小さい子どもや高齢者にもやさしいまちであってほしい。子どもの安全のため監視カメラをつけるのではなく、まちがセーフティーネットとなるように官民連携でできることがある。

イ 北朝霞・朝霞台デザインラボ公式LINEの運用

コミュニケーションツール「LINE」において公式アカウントを立ち上げ、公共空間活用に関する勉強会やワークショップ等の定期的な活動についての情報発信を行った。

[目的]

- ・エリアのまちづくりに興味がある人が参加しやすい環境の構築
- ・エリアの公共空間活用の担い手となるプレイヤーの発掘、及び継続的な関係構築

[運用概要]

アカウント名
北朝霞・朝霞台デザインラボ

運用開始日
2022. 12. 23

友達登録数
145人 (2023. 3. 8 時点)

配信回数
6回
(1/14、1/27、1/31、2/4、2/14、2/24)

配信内容

- ・デザインラボの開催案内
- ・申し込みフォームほか

ウ エリアプラットフォーム検討会議（コアメンバー会議）

エリアプラットフォームの構築と未来ビジョンの策定を進めていくため、会議を開催し、官民連携まちなか再生推進事業についての説明、実施した取組等の報告、今後の進め方、北朝霞駅西口広場についての意見交換などを行った。

第1回北朝霞・朝霞台エリアプラットフォーム検討会議			
日時	令和4年3月22日(水) 16時00分～17時10分		
参加者	エリアプラットフォーム構成員 20名、事務局 4名		
場所	(株)リゾン本社ビル1階コミュニティギャラリー		
内容	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1 自己紹介 2 事業概要説明(朝霞市より) (1) 事業概要について ・本市のウォーカブルなまちづくりについて ・あさかエリアデザイン会議の取組について ・北朝霞・朝霞台エリアのポテンシャルについて ・ウォーカブルなまちづくりを推進する目的 ・実施予定の事業について </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (2) 来年度以降について ・今後の進め方について (3) 質疑 3 事業報告(オーブラスアーキテクチャーより) (1) 今年度事業報告について (2) 質疑 4 その他 (1) 西口広場についての意見交換 (2) 次年度スケジュール案の再確認について </td> </tr> </table>	1 自己紹介 2 事業概要説明(朝霞市より) (1) 事業概要について ・本市のウォーカブルなまちづくりについて ・あさかエリアデザイン会議の取組について ・北朝霞・朝霞台エリアのポテンシャルについて ・ウォーカブルなまちづくりを推進する目的 ・実施予定の事業について	(2) 来年度以降について ・今後の進め方について (3) 質疑 3 事業報告(オーブラスアーキテクチャーより) (1) 今年度事業報告について (2) 質疑 4 その他 (1) 西口広場についての意見交換 (2) 次年度スケジュール案の再確認について
1 自己紹介 2 事業概要説明(朝霞市より) (1) 事業概要について ・本市のウォーカブルなまちづくりについて ・あさかエリアデザイン会議の取組について ・北朝霞・朝霞台エリアのポテンシャルについて ・ウォーカブルなまちづくりを推進する目的 ・実施予定の事業について	(2) 来年度以降について ・今後の進め方について (3) 質疑 3 事業報告(オーブラスアーキテクチャーより) (1) 今年度事業報告について (2) 質疑 4 その他 (1) 西口広場についての意見交換 (2) 次年度スケジュール案の再確認について		

(会議での主な意見)

<p>来年度以降の事業の進め方について</p>	<p>駅の乗降客をどう回遊させるかという視点に加え、居心地がよくなる場所をつくるということでは、駅から遠い市民の方がわざわざ出かけたいくなるという視点も必要。市外の方と市内の方と、どちらに重きを置くかでアプローチも違ってくる。</p>	<p>住む人にとって魅力的であれば、外の人にとっても魅力的。近年では、暮らすことの魅力と、まちとしての魅力がリンクしてきている。本市においてどうバランスをとるべきか検討したい。</p>
<p>今年度の事業報告について</p>	<p>ワークショップでの若い女性が、子や孫の世代までここに住みたいという感想に感銘を受けた。目の前のことを考えがちだが、長期的な視点がある。</p>	
<p>北朝霞駅西口ロータリーの広場化について</p>	<p>時代と共に形ややり方は変わっていくものではあるが、この地域一面がにんじん畑であったことを、モニュメントなどなんらかの形で残すといい。</p> <p>新たな公共空間ができたとしても、にんじんモニュメントはまちづくりがスタートした頃の気持ちを忘れないためにも残しておきたい。</p> <p>先代は、まずは住んでもらうまちをつかった。これからの私たちの代では、住んでいる人が心地よいまちをつくる時。</p> <p>ワークショップではいまいちな公共空間として駅周辺が多く挙げられていた。どこか場所の何が原因であるかを知るためクラスター分析を行い、マクロな視点で検討する必要がある。</p> <p>市外から来られる人を歓迎する一方、まずは、今住んでいる人が住んでよかったなど思える空間をつくる必要がある。</p> <p>広場を、どういう想いで市民に寄り添ってもらうのがいいか。ここじゃなきゃできないということがあるといい。</p> <p>中心市街地の空洞化は大きな課題。西口広場がどう寄与するか考えていく必要がある。</p> <p>西口広場だけで考えるのではなく、そこから先にある黒目川や地元店舗などといった朝霞の魅力へとつなぐハブとして捉えた方がいい。</p> <p>北朝霞のまちだからこそ、語れて自慢できる、地域にしかない長期的な魅力があるといい。</p> <p>駅舎の建替えやマンション乱立による中心市街地の空洞化に注意する必要がある。</p> <p>黒目川は、県の協力も得ながら、地元の方が気軽に出入りできる空間ができるといい。</p> <p>ふらっときて、知っている人と出会えて、素敵な午前中が過ごせるような、まちの中で自分の存在意義を感じられたりコミュニティの場になれる空間をつくってほしい。</p> <p>朝霞（地元）で何をどう過ごすのかを大切にしている人が、お部屋探しをしている方にも増えている。市外から来る人も市内から来る人も両方とも大切。友達と一緒に朝霞に住もうよと言えるような魅力あるまちづくりをしたい。</p> <p>北朝霞・朝霞台には素敵なお店があるが、乗り換えの人はまだ知らない。西口広場で地元のお店が出店するなどして、もっと地域を知ることができハブの機能を持つようになったり、朝から朝霞で過ごすことができる場になればいい。</p>	

(2) 未来ビジョン等の策定

未来ビジョンの策定に向けて、『北朝霞・朝霞台デザインラボ（ワークショップ、実証実験イベント等）』の企画・開催を通して、未来ビジョン策定のためのエリアの現状分析や、北朝霞駅西口ロータリーの広場化の構想検討を行った。

ア 北朝霞・朝霞台デザインラボの開催

公共空間活用に関する勉強会、実践、ワークショップを通じて、北朝霞・朝霞台地区の公共空間活用に対する認識、目的意識、経験を共有するとともに、立ち寄って滞在したくなるまちなかづくりを担うプレイヤー等の発掘を目的としたもの。

〔1〕北朝霞・朝霞台デザインラボ Vol.1 【トークイベント（勉強会）】

テーマ **まちの新しい可能性を引き出すための公共空間活用について学ぶ勉強会**

～「つくる」から「つかう」を官民連携で実現する実践を学んでみよう～

日時 2023年1月20日（金） ①行政職員向け：15:00～17:00、②一般向け：18:00～20:00

会場 ㈱リゾン本社ビル1階コミュニティギャラリー 講師 園田聡（㈱ハートビートプラン）

当日参加者数 ①：市職員17人 ②：34人+市職員8人

目的 北朝霞の公共空間を使って、ライブ・スケボー・芝生でごろごろなど、色々なことができるようになるかもしれないということを他市の事例を通して学び、参加者のまちへの期待値を上げる。



(当日の様子)



内容

講師によるトークイベント形式で、長野県松本市の「三の丸エリアプラットフォーム」や、愛知県豊田市のとよしば広場運営事業「あそべるとよたプロジェクト」の事例を題材とし、公共空間活用の可能性を学んでいただいた。また、本事業の事業説明、デザインラボの周知（公式LINEの紹介）も合わせて行った。

まとめ

- 公共空間の質の向上（居心地の良さ、起きるアクティビズム、愛着醸成）には、「つくる」の他に「つかう」視点を発展させることが重要。つかわれることで向上する。
- 細かなニーズに対応する日々の場所の管理、利用者とのコミュニケーションの積み重ねにより、多世代に愛着を持たれる場の運営が可能となるため、そのようなパブリックマインドを持つ事業者・プレイヤーの発掘、育成、信頼関係の醸成を行うことが重要。
- ラボを通して多くの方に活動を知ってもらいながら事業者やプレイヤーの発掘に向け裾野を広げていく。
- 長野県松本市の「三の丸エリアプラットフォーム」は、プロジェクトの実働機関ではなく、個々のプロジェクト支援、情報共有、全体最適化を行う役割を担っており、今後の運営体制検討の参考とする。

〔2〕北朝霞・朝霞台デザインラボ Vol.2 【実証実験イベント】

テーマ **黒目川での滞在を楽しむ河川空間活用イベント ～ Our Favorite River Kurome! ～**

日時 2023年2月5日（日）10:30～14:00（どんぶり王と同時開催） 会場 黒目川土手、浜崎黒目橋付近

目的

- ① 駅からすぐ近くにある自然資源を体感し、エリアの魅力を再考する。
→ 黒目川にテラス営業店舗や座布団・焚き火によるくつろぎスペースを配置し、心地よい空間づくりを試験的に
行うことで、黒目川の公共空間としてのポテンシャルを探る。
- ② 公共空間を活用する楽しさを体験する。
- ③ 売る側・買う側両面からの小商いのニーズを確認する。
- ④ アンケートやラボ公式ラインなどを活用して、まちづくりに興味のある人と繋がるきっかけとする。



（当日の様子）



内容

河川敷にたくさんのカラフルな座布団を敷いて滞在空間を準備し、コーヒーや焼き菓子の販売、焚き火、DJによる音楽を提供し、いつもとちょっと違う黒目川での滞在を楽しむイベントを開催した。

まとめ

- 今回、出店を含む運営は全て市内の地域人材によって行った。地域内で完結できるイベントとすることが、イベントの継続性の確保や地域の公共空間利活用の底上げを図る上で重要であり、今後も継続する。
- 来場者アンケート（回答者 107 名）では、イベントへの賛同や応援コメントが多く、来場者が公共空間を活用する楽しさを十分実感できたものと考えられる。また、黒目川に音楽・コーヒー等のコンテンツを組み合わせることで心地よい空間の創出が可能であり、このエリアの魅力（ポテンシャル）の一つと考えられる。
- 今後もこうしたイベントを重ねることで、取組への賛同や応援者を増やしていく。
- 今後、公共空間で稼ぐことについても実証実験に取り入れていく。

（今回のイベント収支）

収入		支出		
出店料（2,000円×2店舗）	4,000円	ワークショップ材料費	11,501円	
		食材費（焼き芋用さつまいも等）	4,200円	
		備品費（プレーパーク焚き火造作一式）	18,503円	差引き
合計	4,000円	合計	34,204円	-30,204円

〔3〕北朝霞・朝霞台デザインラボ Vol.3 【まちあるき】

テーマ **北朝霞・朝霞台の公共空間を見つけるフィールドワーク**

～まちを歩いて好きな公共空間を探してみよう！～

日時 2023年2月15日(水) 10:00～12:00 会場 (株)リゾン本社ビル1階コミュニティギャラリー

講師 鈴木美央 (O+Architecture Ltd.、東京理科大学講師)、滝澤いと (コトノハコ)

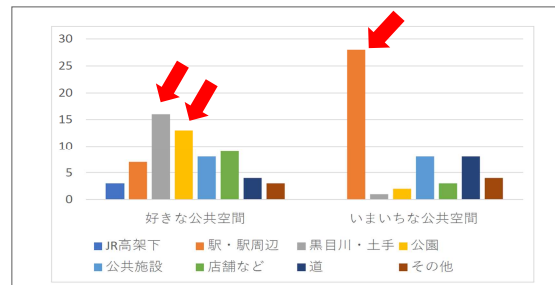
当日参加者数 19人 (うち無料保育サービス利用者3人) +市職員10人

目的

- ①個人の暮らしを起点とした魅力や課題を抽出し、まちのポテンシャルを可視化する。
- ②イベントの企画・運営などができるオーガナイザー人材を発掘・育成する。
- ③オーガナイザーを支えるサポーター、プレイヤー、ファンを増やす。

(平日に保育付きのワークショップとすることで、今までまちづくりに関わらなかった層にもアプローチする。)

(当日の様子)



内容

北朝霞・朝霞台のまちなかを実際に歩いて、「好きな空間」と「いまいちな空間」をそれぞれ選んでもらい、その結果をマッピングし、北朝霞・朝霞台の魅力や課題の抽出を行った。

まとめ

- 「好きな公共空間」には、駅周辺としては独特な『黒目川』『公園』といった自然豊かな空間が選ばれた。エリアの特徴・アイデンティティとして確立できれば、乗換駅としても魅力となる可能性がある。
- 「いまいちな公共空間」は、駅と駅周辺が突出した結果となった。高架下の状況や駅舎の老朽により、暗い、汚い、怖いといった負のイメージが強く、人が多くて危ないといった乗換え駅独特の要素もある。翻って、明るく、居心地がよく、ゆっくり過ごせる場をつくることに対するニーズがあるといえる。
- 駅前の状況を改善できれば人々の認知が大きく変わる可能性がある。実証実験では駅周辺で滞在を中心とした心地よい時間を過ごしてもらい、イメージが改善する可能性を示し、期待を上げることを目指す。
- 北朝霞エリアは線路により分断された地形により、面としてウォークブルエリアを捉えることが難しいが、今回のワークでは好きな公共空間が点在していたことから、魅力的な目的地(点)を増やし、それぞれが自分のお気に入りの点を繋ぐことが本エリアに適したウォークブルの在り方である可能性がある。
- 参加者アンケートでは、ワーク内容に対しポジティブで前向きな意見が多く聞かれ、「まちづくりに参加したい」、「興味があるがどこから始めたらいいかわからない」といった方々をまちづくりに巻き込むきっかけづくりとなった。

〔4〕北朝霞・朝霞台デザインラボ Vol.4 【広場ワークショップ】

テーマ **未来の駅前広場を妄想してみよう！**

～北朝霞、朝霞台エリアでどんな過ごし方がしたい？～

日時 2023年2月28日（木）10:00～12:00 会場 朝霞市産業文化センター

講師 鈴木美央（O+Architecture Ltd.、東京理科大学講師）、滝澤いと（コトノハコ）

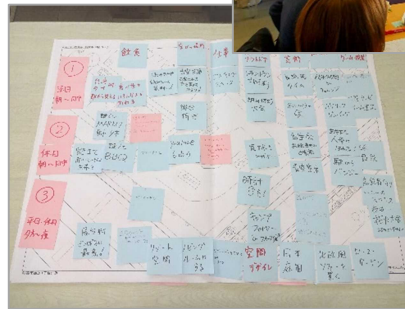
当日参加者数 25人（うち無料保育サービス利用者4人）＋市職員9人

目的

- ①生活者のニーズを確認し、広場の使い方のイメージをまとめる。
- ②イベントの企画・運営などができるオーガナイザー人材を発掘・育成する。
- ③オーガナイザーを支えるサポーター、プレイヤー、ファンを増やす。



(当日の様子)



内容

北朝霞駅西口ロータリーがどのような広場になるといいのか、実践事例を学びつつ、未来の広場イメージやそこでの過ごし方を自分事として妄想してもらい、過ごし方のアイデアの検討を行った。

まとめ

■ワークで出た広場での過ごし方・使い方アイデアの一例

- テラスでモーニングを食べる／朝市&夜市を定期開催し、地元のモノ・コトを提供／誰でもマーケット／子供と電車を見ながら休憩&思い出写真を撮る（大きくなった時に電車好きだったネ、と話しながら飲みたい）／靴をぬいで、座って、飲み物で一息ついて、本を読んだり考えたりしたい／PC持って行って芝 or テーブルで企画ふくらます（コワーキング）／青空教室／リユースの本やおもちゃで遊ぶ広場／パブリックビューイングの前で立ち飲み／酔っ払い屋台村／仕事終わりに友達と食事／安いカップ酒で一日の終わりに乾杯／サクッと夕方になかなか会えないお友達とワインを飲みながらおしゃべりしたい／第3の居場所として家に帰る前の一息づくり
- 意見を踏まえ、日中は子どもと安心して過ごせ、夕方には夕食のお惣菜を買え、夜は友人とお酒を飲み元気になるといった、時間帯によって様々な表情を見せる広場とすることで、多様なニーズをカバーしつつ広場のポテンシャルを活かし、まちの人にとって居場所となる広場を目指す。
 - それぞれの時間帯に多様な事業者（キッチンカーなど）、活用者（イベント主催者など）が出入りする場合には、事業者の選定・管理など場を束ねるマネージャーの存在が質の担保に重要となる。
 - 次回は、今回広げた妄想を具体化するステップとして、広場の在り方や可能性について全国各地の広場事例を学ぶとともに、実証実験を行い、今回挙げた内容の一部を実施し、広場の体験を共有する。

5 今後の予定

■エリアの未来ビジョン（β版）の策定：令和7年3月策定（予定）

エリアの課題、ポテンシャル、目指すべき方向性をビジョンにまとめていく。

■エリアプラットフォームの構築

オープンなワークショップ等を行いながら、官民で地域の賑わい創出や公共空間の活用を考えていく組織づくりを進める。

■北朝霞駅西口ロータリーの広場化検討

広場化の実証実験を行い、公共空間としての使い方を含めたポテンシャルを発掘するとともに、持続可能な広場運営体制や収益施設の設置に向けた検討を行っていく。

北朝霞駅西口ロータリー広場化に向けた実証実験 開催（案）

【開催日】令和5年10月（予定）

【目的】

- ①広場での滞在空間（居場所）の試行
- ②広場での商売（キッチンカー、夜の使い方）の試行
- ③人々の広場に対する期待値を上げる
- ④将来の官民連携での広場運営を想像してみる

【内容】

駅ロータリーを一部交通規制して、ファニチャー等により将来の広場化を想定した滞在空間をつくり、コーヒー・軽食の販売や、キッチンカーの出店、アルコール提供、ミニイベントの開催等、公共空間での多様な過ごし方・使い方を想定した実験を行う。

（一部通行止めの案）



報告事項第7号

ウォークابل施策の推進について

ウォーカブル施策の推進について

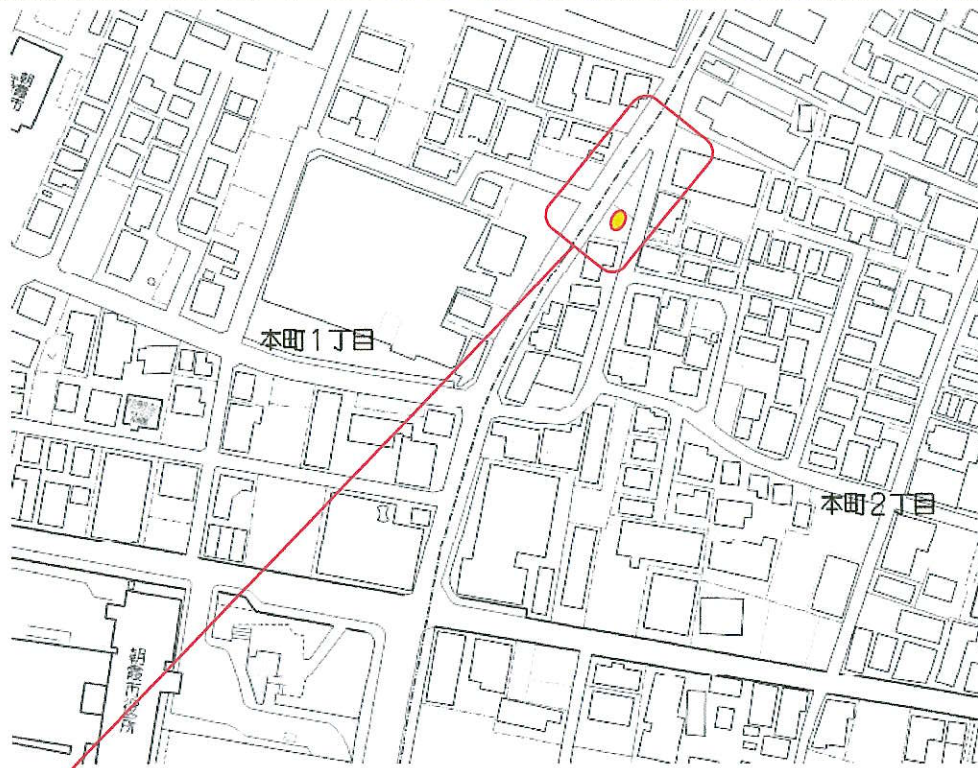
ウォーカブル推進都市として、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成を目指し、ミニパークやまちなかベンチを設置しております。

<ミニパーク及びまちなかベンチの設置状況>

- ・「展望テラス」(島の上公園) (令和2年12月)
- ・「花の池テラス」(市役所庁舎前緑地) (令和3年4月)
- ・「みどりのテラス」(シンボルロード中央広場) (令和3年7月)
- ・「黒目川さくらテラス」(黒目川の溝沼池田橋付近) (令和3年10月)
- ・「オーニングベンチ」(北朝霞駅東口広場) (令和3年10月)
- ・「雅涼庵(がりょうあん)」(シンボルロード北口広場) (令和3年12月)
- ・「ちょっとカウンター」(シンボルロード南口広場) (令和4年1月)
- ・「木かげのトンネル」(シンボルロード中央広場) (令和4年3月)
- ・「まちなかベンチ」(泉水3丁目) (令和4年5月)
- ・「まちなかベンチ」(大字浜崎) (令和4年8月)
- ・「ユニバーサルベンチ」(北朝霞駅西口ロータリー) (令和5年2月)
- ・「サークルベンチ」(市道8号線) (令和5年3月)
- ・「黒目川遊歩道ベンチ」リニューアル(黒目川東林橋付近) (令和5年3月)

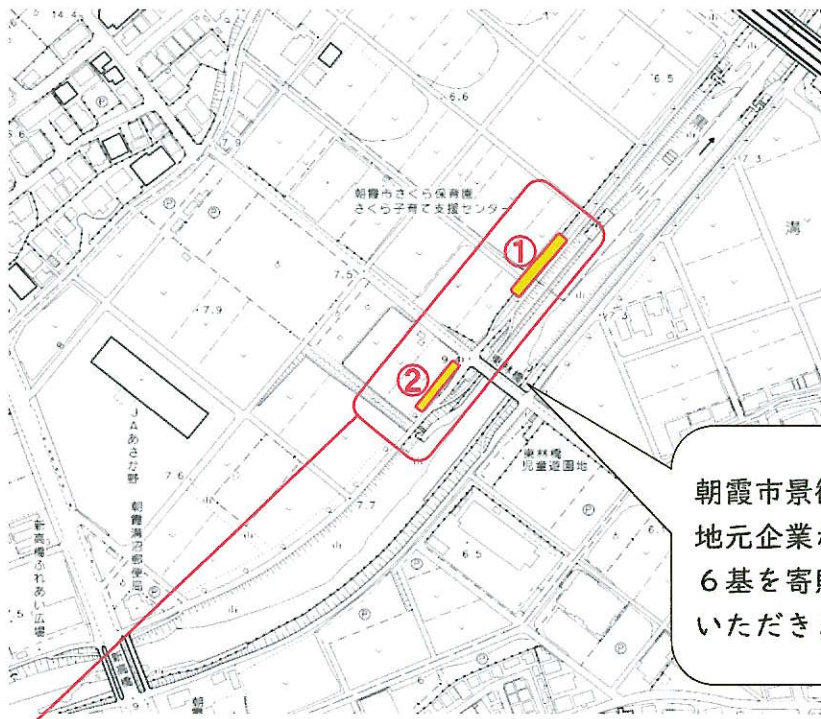
市道8号線サークルベンチ設置箇所(令和5年3月6日設置)

朝霞市本町2丁目地内(市役所より北東へ約200m付近)



黒目川ベンチ設置箇所
令和5年3月20日 地元企業から寄贈(リニューアル)

新高橋～東林橋～東上線高架



朝霞市景観づくり団体である
地元企業から『まちなかベンチ』
6基を寄贈(リニューアル)
いただきました。

リニューアル前(計6基)

①3基



②3基



リニューアル後(計6基)

①3基



②3基



ウォークブルの推進に向けたほこみちの指定について

現状と今後の取組方針

- ・アサカストリートテラスを始め、シンボルロード等道路空間を活用したイベントやキッチンカー出店等、利活用の機会が増加。



- ・今後、道路の利活用をよりしやすくし、ウォークブルの取組を一層推進するため、歩行者利便増進道路の指定を検討。

シンボルロードの歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）の指定について

○ほこみち制度の概要

- ・R2年道路法改正で創設された歩行者のための賑わいを創出する道路の指定制度。
- ・道路管理者がほこみち指定の告示を行うことにより、食事施設、休憩施設等の賑わい施設を道路占用により設置が可能となるほか、占用者の公募により占用期間が5年から20年に延長となる等、道路空間の活用がしやすくなる。

○シンボルロードのほこみち指定について

- ・シンボルロードについて、今年度中のほこみち指定を検討。
- ・現状実証実験としてのイベント時に賑わいが限定されているが、ほこみち指定により、食事施設や休憩施設等の日常的な設置がより一層しやすくなるほか、占用者公募により民間のまちづくりへの参画者・出資者の発掘が可能となる等の効果がある。

（ほこみちにより設置が想定される施設の例）

露店やテーブル、椅子、トレーラーハウス、キッチンカー 等

ほこみち制度について

制度の概要

・令和2年度の道路法改正により創設された歩行者のための賑わいを創出する道路の指定制度。

歩行者利便増進道路は、「地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築」を目指すものであり、歩行者の安全かつ円滑な通行及び利便の増進を図り、快適な生活環境の確保と地域の活力にの創造に資する道路を指定するもの

・道路管理者がほこみち指定の告示を行うことにより、食事施設、休憩施設等の賑わい施設が道路占用許可特例を受けることが可能。

さらに、占用者を公募すると占用期間が5年から20年に延長となる等、道路空間の活用がしやすくなる。



歩行者利便増進道路

ほこみち

～歩きたくなるみち、居たくなるみちへ～

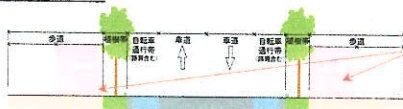
先行事例（自治体）

横浜市、神戸市、
松本市、姫路市、
草加市等

ほこみちとは

賑わいのある道路の構築のための道路の指定制度です。

制度のPoint



Point①
歩道等の中に“歩行者の利便増進を図る空間”を定めることが可能

Point②
特例区域では道路空間の活用を柔軟に許可

Point③
道路空間を活用する者の公募による選定が可能
その場合、最長20年の占用が可能



【歩行者利便増進道路（ほこみち）区間における道路占用に関する特徴】

- ・指定道路内に定めた利便増進誘導区域（道路管理者が指定する特例区域）では、道路占用許可が柔軟に認められる。

⇒無余地性の基準が除外され、カフェやベンチ等の占用物件が起きやすくなる。

- ・道路空間を活用する者（＝占用者）を公募により選定することが可能になる。

⇒この場合、最長20年の占用が可能に

（通常は5年）

- ・民間の創意工夫を活用した空間づくりが可能となる。

- ・テラス付き飲食店など、初期投資の高い施設も参入しやすくなる。





みんなのまちの**みち**が変わる!

／ いいね! ／

ほこみち

始めよう!

憩う
「みち」へ

賑わう
「みち」へ

楽しむ
「みち」へ

路上で、通りで、様々なみちで **ほっこり** に出会える

全国各地に広がっています！ みちから広がる、まちの可能性



三宮中央通り（神戸市）



本町通り（敦賀市）



銀座通り（甲府市）



大垣駅通り（大垣市）



※ほこみち内に指定された特例区域には、テラスやオープンカフェ等を設置できます。

ほこみちとは

ほこみちは「歩行者利便増進道路」の愛称です。道路を歩行者にとって、もっと安心して歩ける楽しく過ごせる「みち」にしたい、そんな願いを込めました。

なにが変わったの？

これまでの通行を中心とした道路から、人の滞在もしやすい道路空間になります。ほこみち制度により「道路空間を街の活性化に活用したい」「歩道にカフェやベンチを置いてゆっくり滞在できる空間にしたい」など、まちなかの「ほっこり」する空間を創出できます。

point 1

歩行者のためになるモノを歩道におくことができます

ほこみち制度を適用する場所を道路管理者が決めます。ほこみちをきっかけに地域から道路管理者に提案したり、地域でストリートの魅力や可能性を話すきっかけにもなります。

point 2

道路を占用する者を公募できます

道路を占用する者を公募で選定できます。地域の特徴を活かしたアイデアや時流に合わせた創意工夫が生まれやすくなります。

※道路管理者以外の者が道路に物品を設置することを道路法では「占用」といいます。

point 3

長期間の占用ができます

公募した場合、占用期間が最長20年間になりました（通常は最長5年）。ビジネスの可能性を試算しやすくなります。カフェ営業などをしようとした場合、長期的な計画が立てやすくなります。

＼こんな時はお問い合わせください／

- ◎ほこみちって何？ ◎どんなものなら置いていいの？
- ◎どんな道ならほこみち指定できるの？
- ◎自分たちの地域でほこみちを指定するには？

ほこみち・よろず窓口

「ほこみち」について、きめ細やかにお答えできるように相談窓口を設置しています。制度を詳しく知りたい方、使ってみたい方、興味を持たれた方などは、お気軽にお問い合わせ下さい！

窓口：国土交通省 道路局 環境安全・防災課
連絡先：hqt-hokomichi-sodan@gxb.mlit.go.jp

